

1. 本堂丸柱の修理状況

本堂の楠材丸柱のうち数本に、芯部分の腐朽や虫害が認められた。芯周辺以外は全体に良好であったため、エポキシ樹脂を使用して補修した。腐朽部分は可能な限り掻き落として清掃し、中にできた空洞に木片を挿入した上で樹脂を注入した。



2. 本堂礎石の状況

本堂および求聞持堂の礎石には、主に緑泥片岩が使用されており、割れや表面の剥離など劣化の進んだものが認められた。

礎石取り替えに伴う調査により、本堂の北東隅丸柱の礎石が、岩盤に直接据えられていることが確認できた。正面側は岩盤の上に礫混じりの土を用いて造成されている。

一部の礎石の割れ目から白蟻が柱底上がった痕跡が認められたため、再用する礎石で破損が認められるものにはエポキシ樹脂で割れ目を充填すると共に、柱との取り合い部分に鉛板を張るなどして対処している。



3. 構成部材の樹種鑑定

森林総合研究所の藤井智之氏の協力を得て、本堂及び求聞持堂に用いられていた木材の樹種識別を進めている。

識別は、部材から採取した試料の細胞を、顕微鏡で調査することにより行われる。

各部材ごとに木口、柃目、板目の各断面を観察できる試料が必要であるが、数mmから数cm程度の大きさで十分であるため、今回は修理予定部分の断片や見え隠れ部分などの破片などで対応できた。

